

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成23年度 第2回 川西市都市計画審議会専門委員会 (川西市都市計画マスタープラン検討委員会)		
事務局 (担当課)	都市整備部 まちづくり推進室 都市計画課		
開催期日	平成24年2月1日(水)		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員 (敬称略)	澤木・松村・水野・山本(信)・駒井・山本(眞)	
	関係人		
	事務局	竹田・芝・廣瀬・茨木・前田・萩倉・堀内・八尾・池田	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
会議次第	議 題 (1) 検討事項 都市計画マスタープラン検討案について(序章～全体構想)		
会議結果	(1) 検討事項 別紙のとおり検討されました。		

第2回川西市都市計画マスタープラン検討委員会

日時：平成24年2月1日(水)19時~21時

場所：川西市役所4F 庁議室

<目指すべき都市像とテーマ別の構成について>

目指すべき都市像の文面で『「ひと」「まち」「自然」を巧みに「活かす」』は非常によいが、それ以下の文と各テーマは画一的である。イメージ図で5つのテーマが大きく出ているが、「ひと」「まち」「自然」を中心とした図の方がよいのではないか。新たに生まれる意味でも「活かす」も必要ではないか。

「協働」は各テーマを実現するための手段なので、他のテーマと横並びではなく、4つのテーマに全て共通で協働がベースになるような表現・構成の方がよいのではないか。

分野別からテーマ別の構成に変更したのは分かりやすくよい。また、各テーマの中で「市民の取組内容」を紹介しているのもよいと思う。協働の中で市民だけでなく、事業者の視点と役割も必要ではないか。

テーマ別の整理や「つくる」から「活かす」への転換などの方針は良いと思うが、市役所内部の調整・共通認識と、市民等を支援していく「覚悟」はできているのか。

「つくる」から「活かす」という方針を打ち出す中で、舎羅林山の開発や一庫新駅の整備との整合を取る必要はないか。

テーマ別への構成変更と言いつつ、第2章をはじめとして、従来の都市マスを引きずっている部分が残っている。

今後、高齢化が加速するので、特にこの10年間で超高齢社会に対応した都市・仕組みに作り替えていく必要がある。高齢者に対応できれば、それは概ね誰にでも対応できるものとなる。

住民のマンパワーがすごくて、知恵や経験を持つ人が多いのが、川西らしさの一つである。「川西」の文字がなくても川西らしさが伝わるようにはできないか。

現在策定中である総合計画との内容や文言の整合を図る必要がある。

<資料1の1-4、1-5(P21~26)について>

それぞれの位置付けが分かりにくい。1-4で一般論的な方針が記されており、1-5で特に説明もなく市民に対する思いが出てきており、それが唐突で分かりにくい。うまくつながるようなタイトルや説明・構成が必要ではないか。

<都市計画以外のソフト面について>

空き地・空き家の活用や住み替え促進など、これまでの都市計画分野以外の要素も盛り込む必要があるのではないか。空き地・空き家をマイナスに考えず、様々な活用が可能な資源としてポジティブに捉えてはどうか。

<道路整備について>

新たな都市計画道路の整備についてはあまり必要性を感じないが、超高齢化する中でシニアカーなども増えるので、歩道の幅や段差解消など、道路空間の再配分と歩行空間などの改善が必要ではないか。安心して歩ける、遊べるような道路づくりと利用についての方向性が必要ではないか。

<拠点と位置付け等について>

都心核、地域核、ニュータウン内の近隣センターの各役割をどうするか。超高齢化が進み、クルマ以外で移動する人が増える時に、生活圈・買物圏をどう考えるか。公共交通と自動車をどう考える

かが必要。

<ニュータウン及び住宅開発について>

「オールドニュータウン」という表現を変えてはどうか。例えば、川西市の他の事業で使用している「ふるさと団地」。

オールドニュータウン問題がある中で、市街地の拡大抑制や田畑から戸建て住宅への転用などを規制することはできないか。

<防災について>

もう少し防災面をクローズアップさせる必要があるのではないか。防災林の育成や燃えにくい木の植樹、崖崩れ等の危険地域の開発抑制、人のつながりなど。

<歴史・産業について>

歴史的な話や産業系について触れる必要があるのではないか。

<次回の委員会について>

地域別構想と推進方策について議論を行う。